

グローバル共同体の

Kishore Mahbubani

大きなファンファーレが鳴り響くこともなかったが、人類は静かに重要な一里塚を通過した。現代は人間の数よりも電話の数のほうが多いが、だからといってすべての人間が電話を持っているわけではない。ひとりで2個、3個と持っている人がいるからである。1990年には、携帯電話を持っていたのはたったの1,100万人であった。2011年の世界の携帯電話の数は56億個となった。一方、固定電話の数は13億2,000万個、世界の人口は70億人に達しようとしている。そして、Skypeのようなインターネットサービスを使えば世界中のほぼすべての地域に無料で電話できる。この電話回線数の多さは、人々がこれまで歴史上経験したことのないレベルで相互接続したことを意味している。

テクノロジーが世界を収斂させている。携帯電話とそれに続くスマートフォンが世界規模で急増したことにより、地球の隅々までインターネットとその情報が普及することになる。小さな太陽電池バッテリーとちっぽけなコンピュータがあれば、アフリカの僻地やインドの村々でも状況は同じである。この情報の「ビッグバン」(そして教育のビッグバンでもある)は、人々の生活を改善している。予防接種についてより多くの人々が学ぶようになり、1970年から2006年にかけてジフテリア、百日咳および破傷風の三種混合ワクチン接種を受けた世界の乳児の比率は、20%から80%近くまで上昇した。そして、手洗いや食物を作る畑で排便しないと、その

他の命を救う知識が世界中に広がり、ますます受け入れられている(Kenny, 2011)。繋がるのが命を救うのである。

そしてテクノロジーは国境を超える人数もさらに増加させる。1950年に国外旅行をしたのはやっと2,500万人であった。2020年までに、その数は16億に達すると思われる。つまり、地球という惑星の住民全体の5人に1人が国境を越えることになる。以前には考えられないレベルである。

しかしテクノロジーは、この深い相互接続性を引き起こした要因の一つに過ぎない。時間とともに人間は単一の世界経済をも作り出した。そのため、規模の小さいギリシャ経済であっても、危機に瀕すると全世界が震撼する。このギリシャ発のドミノは、現在米国および中国経済と同じ大きさのドミノを倒すことができる。世界中の株式市場は大きな世界的事件が勃発すると揃って変動する。そして世界的なサプライチェーンは、1つの国が自然災害によって打撃を受ければ、海の向こうの工場も影響も被ることを意味する。我々は単一の経済の中で生きている。

地球温暖化も、世界が狭くなったというメッセージを発している。ほぼ毎日、我々は気候変動が本物であるという証拠を目の当たりにしている。北極での解氷や異常気象パターンがその例だ。どんな国でも、一国だけでは地球温暖化から世界を救うことはできない。同様に、インフルエンザの旅行者が1人でも飛行機に乗り込め

時代

相互接続性の飛躍的な高まり

ば、世界中で数千人がすぐに感染してしまう。これを避けるため、世界は共同体として、協力して力強く取組まなければならない。そのためには、70億人の命が、今深くお互いに関わっていることを我々に気づかせるための、新たな世界共通の倫理観が必要である。オックスフォード大学の哲学者、デイビッド・ロダンがこう論ずる。「グローバルな性質を強める緊急の諸問題に対処するため、我々はグローバルな倫理の方へ『押し出されて』いく (Rodin, 2012)」私はこの意見に賛成である。

逆説的に言えば、テクノロジーは重大な影響力を持つが、これは各地域を超えた感情面のつながりも運んでくる。33人のチリ鉱山労働者が69日間地下に閉じ込められたとき、全世界が彼らの無事を祈った。また、ウガンダの司令官ジョセフ・コニーは、何十年の間、数千人を殺傷したと糾弾されていたが、彼についての動画がバイラルで流れ、「これまでで最も多く視聴された動画」になると、急に拘束され権力を奪われた。この動画はわずか6日で1億回以上視聴され、その大部分はYouTube上であった (Aguilar, 2012)。2012年3月に米国上院に提出されたコニーを非難する決議は46人の共同提案者を得た。その1人であるリンジー・グレアム上院議員は、「誰かが1億人のアメリカ人の注目を集めていけば、その人間は議会の注目も集めることになる」とコメントした (Wong, 2012)。

地球規模の相互接続性が飛躍的に発達しているので、情報およ

び知識が広がっていけば、我々の倫理基準も国境を越えて拡大していく。我々全員が地平線の向こうに目を向け、自国の国民であると同時に地球という惑星の市民となるのは時間の問題である。我々がグローバルな共同体を強化するために団結するとき、世界はより良い場所となる。■

キシヨール・マブバニは、シンガポール国立大学リークアンユー公共政策大学院長であり、近々出版予定の「大いなる収斂：アジア、西洋、そして『一つの世界』の論理 (The Great Convergence: Asia, the West, and the Logic of One World)」の著者である。

参考文献

- Aguilar, Mario, 2012, "Kony 2012 Is the 'Most Viral' Video of All Time," Gizmodo, March 12.
- Kenny, Charles, 2011, "Getting Better in Pictures," Center for Global Development Essay, p. 25. www.cgdev.org/content/publications/detail/1424862
- Rodin, David, 2012, "Toward a Global Ethic," Ethics & International Affairs, Vol. 26, No. 1, pp. 33-42.
- Wong, Scott, 2012, "Joseph Kony Captures Congress' Attention," Politico, March 22.